

“紙リサイクル” 全国小中学生 コンテスト2021

入賞者一覧・受賞作品作品集

主催

公益財団法人古紙再生促進センター

後援

文部科学省

全国連合小学校長会、全日本中学校長会、

全国市町村教育委員会連合会、

全国小中学校環境教育研究会、

読売新聞社、全国製紙原料商工組合連合会、

日本再生資源事業協同組合連合会、

段ボールリサイクル協議会、日本製紙連合会



2021年度 入賞者一覧



文部科学大臣賞

宮城県 気仙沼市立松岩中学校 2年
作文部門 **佐藤 里桜** リサイクルで仲間の輪

大阪府 堺市立東三国丘小学校 5年
ポスター部門 **小林 美琴** 資源も命のように大切に



金賞

福岡県 北九州市立足立小学校 6年
作文 小学生部門 **小田 孝太郎** ワンチームでの挑戦

山梨県 山梨学院中学校 2年
作文 中学生部門 **名倉 湧希** 世界に届け、
生命とリサイクルの輪

鹿児島県 霧島市立天降川小学校 3年
ポスター 小学生部門 **野崎 宏太** 待ってました

東京都 文京区立音羽中学校 2年
ポスター 中学生部門 **宿谷 艶** ぜひお古紙ください。
持続可能な未来へ……



特別金賞

全国製紙原料
商工組合連合会
理事長賞 愛知県 岩倉市立岩倉北小学校 3年
高峰 はるか わたしの生活の紙リサイクル
(作文)

日本再生資源事業
協同組合連合会
会長賞 兵庫県 小林聖心女子学院中学校 1年
山縣 志帆 ひろがれリサイクルの輪
(作文)

段ボール
リサイクル協議会
会長賞 北海道 札幌市立真栄小学校 2年 **いざっ! うまれかわりに
サムソナー 織美愛** しっかりわけてね 紙リサイクル
(ポスター)



銀賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	福岡県	明治学園小学校	2	能美 にな	できる？できない？ 知ろう！紙リサイクル
	中学生部門	愛知県	東浦町立北部中学校	3	笠松 大輝	祖父の「ある」行動
ポスター	小学生部門	岩手県	北上市立黒沢尻東小学校	1	青木 創志朗	リサイクルで またあおう！
	中学生部門	宮城県	宮城県仙台二華中学校	3	小川 怜禾	未来へつなぐ紙リサイクル



銅賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	大阪府	関西創価小学校	4	細田 幸	生まれ変わる紙と、二つの合言葉
		福岡県	明治学園小学校	3	野入 桃子	雑にあつかわないで！ 雑紙の願いと私達の暮らし
		高知県	高知市立大津小学校	6	高橋 奏	紙は大切な資源という宝物
	中学生部門	静岡県	静岡市立蒲原中学校	3	久保田 華	リサイクルの輪
		静岡県	静岡市立蒲原中学校	3	森 美温	めんどくさかった・・・けど。
		静岡県	浜松市立浜名中学校	1	小梢 蒼依	「紙リサイクル」で地球の未来を守る
ポスター	小学生部門	福岡県	福岡市立那珂南小学校	2	浅井 颯汰	変身リサイクル！ 紙のヒーロー
		福岡県	福岡市立那珂南小学校	3	押方 茉希	牛乳パックをリサイクルして 作ったエコバック
		東京都	武蔵村山市立雷塚小学校	5	大平 華鈴	つなげよう！ 広げよう！ 紙リサイクル
	中学生部門	神奈川県	川崎市立高津中学校	1	上野 文菜	「繋ぐ」
		佐賀県	佐賀県立武雄青陵中学校	2	野中 夏希	まわそう、リサイクルのサイクル
		宮城県	仙台市立南光台中学校	2	半澤 美海	楽しみをくりかえす。



学校特別賞

山口県

岩国市立灘中学校

高知県

日高村佐川町学校組合立加茂中学校



学校奨励賞

小学校部門 兵庫県 神戸市立霞ヶ丘小学校

中学校部門 福島県 白河市立白河中央中学校

目次

3-4P	文部科学大臣賞受賞作品
5-8P	金賞受賞作品
9-11P	特別金賞受賞作品
12-13P	銀賞受賞作品
14-19P	銅賞受賞作品
20P	学校特別賞受賞校紹介
21P	学校奨励賞受賞校紹介
22P	古紙再生促進センター活動紹介



文部科学大臣賞 作文部門

気仙沼市立松岩中学校 2年

佐藤 里桜

リサイクルで仲間の輪

「リサイクルのために四月から回収した紙が六百四十キロになったよ。」

職場から帰ってきた父はそう言って、ダンボール箱を姉と私に見せた。六百四十キロの実感がわかない私達には「この箱にコピー用紙がいっぱい入って二十キロだから、六百四十キロはこの箱三十二箱だよ。」と告げた。私はすごい量だと驚くと共にここまで活動の思い出していた。

去年、私と姉は市の広報誌でリサイクルの取り組みについて調べ、自分達にできる方法を考え、実践してみた。「リサイクルできる紙はお宝」を合い言葉に、学校から配布されたプリントは個人情報を取り取り、菓子箱はきれいにたたんで分けし、たまるときに収集所に運んだ。家庭での燃えるごみが減ったと母は喜び、私もずっしりと重い「雑紙」を運ぶたびに「地球に優しい活動」を実感できうれしくなった。

この活動をもっと多くの人に知ってもらい、一緒に活動したいと姉が父の職場で行うことを提案した。父は職場の上司と相談し、紙資源の回収を始めた。「どうすれば多くの人に参加してもらえるのか」と考え、私達はポスターを作成し、父の職場に貼ってもらった。「菓子箱をリサイクル、十歩動けばごみから資源へ」このポスターを見て、ゴミ箱に入れていた菓子箱をリサイクルボックスに運んでくれる人や家庭から様々な「雑紙」を

持ってくる人も増えたそうだ。また、父に「この紙もリサイクルでいいですか。」と、聞く人もいて、一緒に活動してくれる人が増えていることが実感でき、「リサイクルの輪」がどんどん広がるのがとてもうれしく、自分への励みとなった。

ある日、父がこんな話をした。いつも家庭から「雑紙」を持ってくる女性が「私が持ってきた紙を見られると、私のプライバシーが丸見えですよ。」と話していたと…。私は、「あっ」と思った。私達が用意した雑紙の回収ボックスは入れやすく、取り出しやすいようにとふたのない大きな袋だったのだ。持ってきてくれる人の気持ちに寄りそった方法ではなかったと反省し、姉と相談してふたがあり、中身が見えないようにリサイクルボックスを工夫してみた。

これらの経験から、多くの人と一緒に活動するためには相手の立場に立つて気持ちを考えたり、自分から積極的に動いて声掛けすることが大切だと思った。今、姉と一緒に紙資源のリサイクルをする必要性や六百四十キロもの資源が集まったことと、そのことに感謝する気持ちをまとめたパンフレットを作成している。このパンフレットを多くの人が見て、リサイクルの必要性や活動の充実感や楽しさを知ってもらいたいと思う。そして、一緒に活動する仲間の輪をもっと広げていきたいと考えている。



文部科学大臣賞 ポスター部門

堺市立東三国丘小学校 5年

小林 美琴

資源も命のように大切に



作文小学生部門

金賞

北九州市立足立小学校 6年

小田 孝太郎

ワンチームでの挑戦

「紙は「ゴミじゃない!!」を合言葉に、全国で紙のリサイクルの授業をしている先生の本を、クラスのみんで読む機会がありました。

紙はリサイクルされていることは、もちろん知っていましたが、しかし、正直わが家では、当たり前のように燃えるゴミ袋の中へ、バンバン捨てていました。「もったいない」が口ぐせの母でさえ、冷蔵庫の開閉やエアコンの温度、水道の蛇口の閉め忘れなどには厳しいが、紙を捨てることには何も言いません。それどころか、母自身も、多くの学校からの手紙や自分の雑誌など、読み終えて必要がなければ、燃えるゴミ袋へとどんどん捨てていました。ぼくは、今回全国で紙のリサイクルの授業をしている先生の本を読んで、すごく反省しました。今すぐにも、紙のリサイクルをやらなければという使命感もわいてきました。それで、家族がそろった夜ごはんの時、「我が家でも、紙のリサイクルで、できることを考えて、やってみようよ。」

と声をかけました。すると母が、「恥ずかしいことしよったんよね。分かってはいたけれど面倒くさくて、ついゴミ袋に入れてしまっただけ。リサイクルに大賛成。」

と言ってくれました。この日を機に、我が家はワンチームとなり、紙のリサイクルに取り組み始めました。名付けて「紙ミッション」です。

ミッションその一は、面倒くさがりやの我が家のメンバー。燃えるゴミ袋の真横に「紙はこちらへ」と貼ったカゴを用意しました。カゴいっぱいになると、回収ボックスがある市民センターに順番に持っていくように順番表も作成しました。市民センターの職員の方に、リサイクルできる紙でも分別して出さないといけない理由や、禁制品としてリサイクルできない紙もあることを教わりました。紙のリサイクルも奥深いと実感しました。

ミッションその二は、こうして紙のリサイクルに取り組み始めて知ったことを伝えることです。ぼくは、「家庭新聞」を発行することにしました。その新聞には、市民センターの職員から教わったことや、さらにインターネットや本で調べた、紙のリサイクルの流れや、紙のリサイクルをすることで、現在の循環型社会の形成に大きく役立っている理由などの記事を徐々に掲載していつていきます。この「家庭新聞」を見た担任の先生から、学校でも、全校児童に発信したらとすすめられて、「環境新聞」を発行することになりました。紙のリサイクルのクイズなども取り入れることで、とても好評で継続していく予定です。

紙のリサイクルを始めたことで、家族の会話が増えました。ぼくは、これからもより一層、紙のリサイクルのことを知り、学び、体験することで、自分にもできることを見つけていきたいです。そして今後も家族ワンチームで取り組んでいきたいと思っています。

金賞

山梨学院中学校 2年

名倉 湧希

世界に届け、生命とリサイクルの輪

「新聞と広告はしっかり分けなくちゃ。あと、雑誌もね。きれいにして渡さないよ。」独り言を言いながら、古新聞や広告を束ねている祖母。七十歳になった祖母は、見た目こそ若いけど、今はできることが少ない。会話はリピートが多く、最近では不思議な行動や格好も増えてきた。でも、手先はしっかりしていて、この仕分け作業だけは、感心するほど完成度が高い。束ね方にも祖母らしい几帳面さがにじみ出ている。古雑誌やチラシなのに、まるで新品色紙のグラデーションのように整えられている。結束紐も紙製というこだわりぶりだ。毎週、祖母宅にお弁当を届けるかたわら、整えられたその束を庭先まで運ぶのが僕の仕事。はじめのうちは、「なぜわざわざこんなことをするのだろう。読み終えたら捨ててしまえば早いのに。」と不思議だった。でも、ある時遭遇した古紙回収業者さんから、「いつもきれいにしてくれてありがとう。」と満面の笑みで声をかけられトイレトペーパーを渡されたことがきっかけで、この理由を自分なりに考えるようになった。

最初の疑問は「ありがと」だった。古紙を家の前まで回収に来てくれて、かつお礼の言葉。普通逆のような気がするがなぜなのか。古雑誌は、祖母宅ではその役目を終えたが、この業者さんにとっては、少なくとも大事なもので、事業において必要な原料の一つになっているのではないかと僕は考えた。その後、保健の授業でリサイクルについて学び、古紙も再生可能であることを知った。

祖母と私の生活が長かった僕は、ものを大事にする姿を間近でみてきた。でも、古雑誌の仕分けもその一つだと分かったのは最近になってからだ。

数年前の夏休みに旅行で訪れたパラオ。世界遺産に登録された美しい海が自慢のこの国には、日本の海辺にありがちな、空き缶やペットボトルは、一つも落ちていなかった。ガイドさんが、このことをとても自慢していたのが、今でも印象に残っている。パラオでは、ペットボトルや缶に税金がかけられていて、使用後指定場所へ持っていくことで換金される仕組みになっているそうだ。また、パラオでは、古紙が堆肥にリサイクルされていることも教えてもらった。いずれも素晴らしいシステムだ。紙が肥料になるー想像を超えていた。ティッシュもメモ用紙も何気なく使い、捨てている自分が恥ずかしくなった。パラオの美しい海は、小さな国の多くの取り組みによって守られていた。古紙から生まれた堆肥で食物が育ち、それを僕らが摂取する。途切れることなくつながっていく輪、命の輪ともいえるリサイクルの輪が世界中に浸透していけば、地球の美しい自然と環境は永遠に守られていくのではないかと。パラオの美しい自然がそれを期待しているような気がした。

先日祖父にパラオのリサイクルの話をした。

「俺の畑も、古紙で野菜が育つ日が来るかもしれないな。」

祖母も僕もそうなる日を願っている。

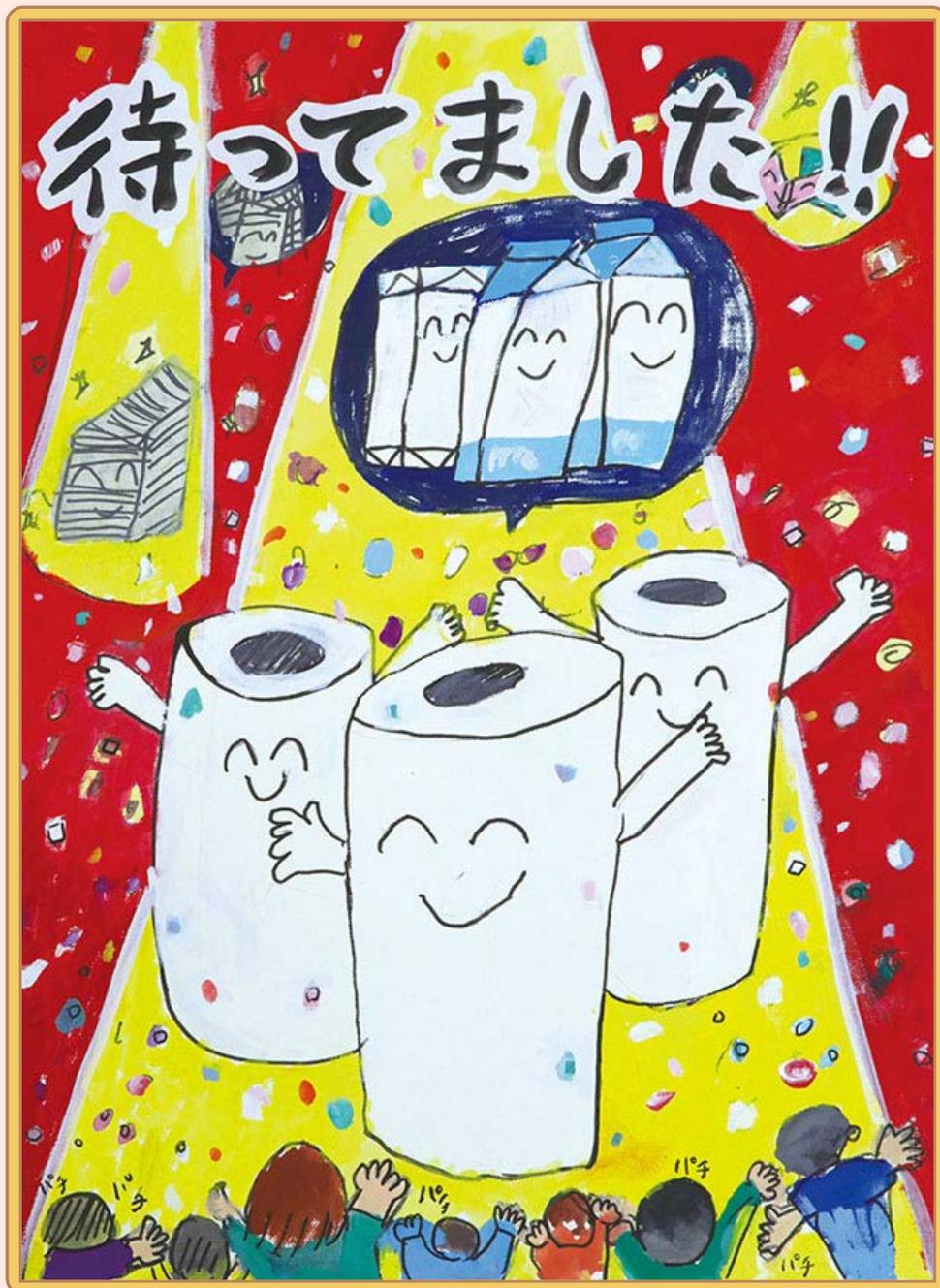
ポスター小学生部門

金賞

霧島市立天降川小学校 3年

野崎 宏太

待ってました



ポスター-中学生部門

金賞

文京区立音羽中学校 2年

宿谷 艶

ぜひお古紙ください。持続可能な未来へ...



特別
金賞

岩倉市立岩倉北小学校 3年

高峰 はるか

わたしの生活の紙リサイクル

わたしの家では紙を大切にしています。

わたしの家族は、お父さん、お母さん、ひいおばあちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんの6人家族です。お父さんはたん身ふにんです。

わたしは学校からプリントをもらってきてお母さんに見せます。そうしたら、お母さんはプリントがいろいろないかをはんだんします。

とっておくひつようなないプリントの中で、両面にいんさつされている物は、わたしが紙しげん入れに入れます。名前や住所などのこ人じょうほうが書かれている物は、わたしがスタンプでぬりつぶしてから入れます。

いらぬプリントでうらが白い紙は、電話の横におきます。新聞といっしょに来るうらが白い広くもおきます。うらが白い紙はおばあちゃんが買い物メモに使います。紙が大きくて、字が大きく書けるのでおばあちゃんやおじいちゃんは見やすいようです。わたしもたまにその紙を遊びやべん強に使います。新がたコロナウイルス感せんしょう予ぼつの体温をはかった後、ほけん室の先生からくばられた体温を書く表が見当たらない時に、おぼえておくために書きます。うらが白い紙は気がるに使用してべんりです。使った後はその紙も紙しげん入れに入れます。

ひいおばあちゃんは、いつも市の広ほうで古紙回しゅ

うの日を調べておぼえています。ひいおばあちゃんは紙しげん入れがいっぱいになると、紙をまとめひもでしばります。古紙回しゅうに出すじゅんびです。おじいちゃんは家のうらの公園で、月に1回、古紙回しゅうのボランティアをしています。地いきの人が古新聞や読み終わったざっしなど紙しげんを出しに来ます。

お父さんはたん身ふにん先から家に帰ってくる時に、家族におかしのおみやげを買ってきてくれます。おみやげは家族みんなで食べます。お父さんのおみやげのおかしはおいしいです。おかしのほうそう紙や、おかしのはこは、平らにして紙しげん入れに入れます。すてきななががついていたり、工作に使用しゅうな形だったりすると、たなに入れてとっておきます。

わたしの通っている小学校のクラスには、紙リサイクルボックスがあります。先生があまったプリントや、図工で使ったのこりの紙を集めています。クラスで出たダンボールは、リサイクルしゅうこに集めます。お父さんやお母さんのしよく場でも、ダンボールや紙を出す場所が決まっています。

家、学校、地いき、しよく場に紙をリサイクルするためのきまりがあることを知りました。わたしは知らないうちいきまりにしたがい、紙をリサイクルしていたことに気がつきました。わたしは、紙のリサイクルのきまりをみんなでももって生活していきます。

特別
金賞

小林聖心女子学院中学校 1年

山縣 志帆

ひろがれリサイクルの輪

日本人はきれい好きが多いと聞く。自分の家にダンボールや新聞・雑誌が山積みになっていると、気になって今すぐ捨てたくないのでないか？

私の地域では紙・布回収日は月に2回。新聞や広告が毎日届くうえ、お菓子の空き箱や空封筒、その他メモ紙など、雑紙と言われる資源ごみを月2回の収集日まで、つまり2週間溜めておくと相当な量になる。家に紙資源がたまると、たえきれなくなり「これくらいなら」と、雑紙などを週2回収集される可燃ごみと一緒に出す人もいるのではないか。これは問題だ。家庭からの可燃ごみは主に生ごみで、これには水分が含まれているため燃えにくい。そこでプラスチックなどの燃えやすいものを加えて燃やすと二酸化炭素の排出量が増えてしまう。

また、お隣に住むお年寄りの家庭では、2週間分の溜まった新聞をゴミステーションまで運ぶのが大変そう。私は何度か、運びましようか？とお声がけをしたことがあるが、「大丈夫よ。」と、ご遠慮された。リサイクルを広く浸透させるためには、若い人からお年寄りまで全員が無理なく取り組めるようにする必要がある。

そこで、実際私が小学生の頃に参加していた地域の子ども会における取り組みをみてみよう。子ども会は月に1回、古紙回収リサイクル日を地域の方にも案内し、規定の月2回の回収日以外にもリサイク

ルしてもらおうと呼びかけている。また、年に2回、公園掃除を実施した時に、自宅にある古紙や古着を持ち寄る活動も行っている。更に、子どもの参加者は地域の方にご協力を頂くために、回収日を明記した年間カレンダーのお手紙を各家庭のポストに入れて配るお手伝いもしている。

これらの取り組みに影響を受けた自治会も自治会主体で、古紙・古着リサイクル回収の呼びかけを月に1度の頻度で始めた。この結果、私たちの地域では、通常回収が月に2回、子ども会回収が1回、自治会回収が1回と合計4回、つまり毎週古紙・布リサイクルが可能になった。1週間分の新聞や雑紙であれば軽く幼稚園児でもお手伝いができ、お年寄りも苦勞なくゴミステーションへ運べる。

私の住む地域の良い点は2つある。1つ目は子ども会や自治会を通してリサイクルができること。2つ目はお年寄や小さな子どもも取り組みやすいことだ。

地域の枠組みの中で子どもの頃からリサイクルに取り組む良い文化が生まれていく。そして、幼い時からこのような活動に参加することにより、リサイクルへの考え方が習慣化され、リサイクルへの意識や関心が高まる。それが将来地球の環境に対して思いやりのあるやさしい生活を送る大人になることにつながっていくのだ。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

札幌市立真栄小学校 2年

サムソノー 織美愛

いざっ！うまれかわりに
しっかりわけてね 紙リサイクル



「とつぜんですが、問だと思います。この中で、紙リサイクルできるものはどれでしょうか。」

今年の夏、国のきかんでファックスがはい止になるというニュースを見ました。「やめるよりもしっかり紙リサイクルに回せばいいのに。」とつぶやいたら、母に「ファックス用紙はリサイクルできないよ。」と言われ、びっくりしてしまいました。そこで、リサイクルできる紙とできない紙についてくわしくしらべてみました。すると、ファックス紙はかねつ紙という、リサイクルできない紙の一つでした。ほかにもレシートや紙コップ、かばんなどのつめものも、リサイクルできません。はじめて知ることが多かったので、まわりの人はどれくらい知っているのか、アンケートをとることにしました。

「とつぜんですが、問だと思います。この中で、紙リサイクルできるものはどれでしょうか。」そういって、①紙コップ②シール③レシート④しゃしん⑤たぐいはいでんびょう⑥おかずカップ⑦カバンのつめもの、そして今年どの家でいでもたくさんつかったはずの⑧紙マスキの八つのしゃしんをのせた紙をわたしました。そう、じつはこの八しゆるいは、すべて紙リサイクルできないものです。シールなど四つのはわたしも知っていました。ほかははじめて知ったものだったので、けっかがとても楽しみでした。アンケートは大人と子どもあわせて五十三人に回答してもらいました。

八つの中で、リサイクルできるとかんちがいしている人が一番多かったのは、①紙コップでした。なんと半分以上の人がリサイクルできると思っていたのです。また、⑦つめものは、大人のほとんどの人がリサイクルできると思っていました。コピー用紙に見た目がにているからかもしれない。また、⑧紙マスキは、リサイクルできると思うけれど、かんせんリスクもあるからリサイクルしないのだと思っている人が多くいました。紙マスキはじつは「ふしよくふ」というそざいでできていて、そもそも紙ではないということに答え合わせの時に話すと、みんなびっくりしていました。またアンケートにはのせませんでした。金色やぎん色のおり紙もリサイクルできないんだよと言つと、大人もおどろいて、しばらくみんなでその話でもり上がりました。

アンケートでぜんぶ正かいていたのは八人でした。この八人はみな、古紙回しゅうなどの活動をしたことがある人でした。紙リサイクルは、まず知ることが大切です。でも知っているだけでなく、行動につすことが、正しい紙リサイクルをするためにひつようなんだなと思っていました。今回のアンケートで、みんなが紙リサイクルにきょうみを持ってくれたらうれしいです。まずは自分のまわりから、みんなで楽しく、正しく、紙リサイクルをすすめていきたいなと思います。

商売をしている母親の祖父の家へ行ったときのことである。なんとなく祖父の仕事を見ていた。請求書が入っている封筒だろうか。中身の確認を済ますと次にハサミを取り出した。開封のときには使わなかったのに、ハサミの使用目的がわからなかった自分は多分不思議そうな表情をしていたと思う。祖父がそれに気づき、

「ここを切り取って、古紙とプラスチックのごみの分別をするんだよ。」と教えてくれた。ここは住所や宛名が記したところが見える透明なフィルムの場所だ。今まで何度も仕事場を見ていたが全く気がつかなかったが、そう言われて他の封筒を見ると同じように四角い窓の形に開いた封筒があった。一枚や二枚ではなく、束となって。聞けば封筒は以前まで可燃ゴミとして出していたが、分別が細かくなってから切り取り始めて今もずっと古紙とプラスチックのごみに分けて出しているという。

祖父の話に正直驚いた。自分はずいぶん封筒はごみ箱行きだ。つまり可燃ゴミ。つまりリサイクルすらしていないことになる。家に帰り母に祖父の家で見聞きしたことを一部始終話してみた。母の言葉はこうだった。「そっか、ええ、そんなことしてたね。お母さんも気になって聞いてみたことがあるよ。」

そして聞いてみた。

「家は同じことやってる？」

「…。ううん、やってない。分かってはいるんだけどね…。」

僕ははっとした。見聞きしているだけではだめなんだ。実行に移してこそ、初めて物事は完成するんだ。祖父と母の違いはそこにある。一方はリサイクルして価値あるものに生まれ変わり再利用され、一方は燃やされて終わりのものだ。祖父のやり方を母がやるようになって、母が周りの人に伝えて、その教えられた人がまた近くの人に伝え、そうやって脈々とリサイクルの輪が広がる様子を想像していたら、バタフライ効果という言葉思い出した。わずかな変化を与えたら、そのわずかな変化が無かった場合とは、その後の状態が大きく異なるというものだ。主旨は大きく外れるかと思うが、取るに足らない小さなリサイクル活動が周りの人たちに良い影響を与えながら広まる善行の世の中は素敵だと思ふ。同時にこれから生きていく自分たちはそんな世の中をもっとよりよくしていくためには、何をすべきか考える必要があると思ふ。

祖父の話に戻るが一度決めたことを忠実に実行し、それをあたり前にやり続ける祖父のことが自分の誇りでしかない。

ポスター
小学生部門
銀賞

北上市立黒沢尻東小学校 1年 青木 創志朗
リサイクルで またあおう！



ポスター
中学生部門
銀賞

宮城県仙台二華中学校 3年 小川 怜禾
未来へつなぐ紙リサイクル





生まれ変わる紙と、二つの合言葉

「あー！」

駅のトイレに入った時トイレトペーパーがぎれていることに気がつきました。私はあわてて、よびのトイレトペーパーを手にとりました。その包そう紙に、「再生紙を利用しています」と書かれていることに気がつきました。ちょうど社会のじゅ業でリサイクルについて勉強していた時だったので、それまでは、気にもならなかった言葉が目にとまりました。でもよく考えたら、私が使ったトイレトペーパーは、トイレに流してしまいます。じゃあいったいどんな紙がトイレトペーパーに生まれ変わっているのかな？と気になりました。そんなことを考えながら、家に帰り、家族に話をしてみました。するとお父さんが「紙のリサイクルについて、調べてみようか」とはりきりました。

調べてみると、お父さんやお母さんも知らない事だらけで、「ほんまに？」

「うそやあ」

の連続でした。まず調べるきっかけになったトイレトペーパーは牛にゆうパックのような飲料用紙パックが生まれ変わったものでした。古新聞は新聞に、古ダンボールはダンボールに生まれ変わります。紙の種類によって生まれ変わるものがちがうのです。私は今まで、紙であればどんな種類の紙にでも生まれ変われると思っていました。でもそれは大きなまちがいでした。

「だから分別はひつ要なんやなあ」とお母さんが言いました。私もほんとうにそのとおりだなあと感じました。

次におどろいた事は、せい紙原料にならないものは、紙の回収に出してはいけないという事でした。その中には、金色や銀色の折り紙や、ピザやドーナツが入っていた箱もあり、わが家では今まで紙の回収日に出していたものでした。私たちが知らないまま出してしまっていたそのような紙は、その後だれかが気づいてぬいてくれたのかな。もっと早く知っていたら良かったと思います。

わが家では、紙のリサイクルについて調べてみて、二つ合言葉を作りました。一つ目は「その紙出していい紙？」です。せい紙原料にならない紙はたくさんあります。すぐに全部は覚えることはできないけれど、家族でクイズのようにして楽しく覚えていけたらいいなと思います。

二つ目の合言葉は、「ちゃんと分別した？」

です。わが家だけでも、回収日の紙の量は、とても多いです。分別できていない家が多いほど紙の生まれ変わりに時間がかかります。まずは自分の家から紙の分別にチャレンジして、その大切さをみんなにも伝えていきたいです。



雑にあつかわないで！雑紙の願いと私達の暮らし

リサイクルをするためには、分別が大切だとわかっていても、分別にはいろいろな種類があることを知っていますか？ダンボール、紙パック、新聞や雑誌など様々です。それ以外の紙は「雑紙」と言うそうです。調べてみてはおどろきました。なぜなら、それらを雑紙と言ったことも雑紙という言葉も知らなかったからです。

お菓子を食った後の箱、絵をかき終わった後の紙、私はこれらをゴミ箱に捨てていました。ゴミとしてあつかっていたのです。

「おーい！わしら、リサイクル出来る資源やで！大切にアつかってや！」と、雑紙は悲しんでいたかもしれませぬ。「雑」がつくからといって、雑にあつかってはいけないのです。

人は雑にあつかわれると嫌な気持ちになります。仕返しを考えることだってあるかもしれませぬ。それはとても悲しいこと。逆に、ていねいにあつかわれると気分が良くなります。うれしくなって、ほかの誰かにも優しくしようと思います。雑紙も、人と同じようにきつとていねいにあつかわれたいはずなのです。

「わしら、まだ働ける！再び働くチャンスくれー！」

なんだか雑紙の声が聞こえてくるようです。チャンスさえあれば、リサイクルされた後に、また新しい何かに生まれ変わってまだまだ活やく出来るのです。

資源ごみ回収の日に雑紙を出すには、こえなければならぬいくつかのハードルがあります。まず、リサイクル出来る雑紙なのかどうかを知ることです。食品の食べかすが付いたものはリサイクルできません。ピザの箱やドーナツの箱です。他にもシールやにおいの付いた紙もダメです。石けんの箱、トイレトペーパーのしんは雑紙ですが、香り付きのトイレトペーパーのしんは、香りがついているのでアウトです。なかなかむずかしい！種類が多すぎて覚えられません。そこで、私は一らん表を作りました。家族みんなが見てわかりやすいように絵もかいて工夫しました。

次に雑紙をまとめる袋です。私の住む市では、それらを紙袋か半とうみのポリ袋へ入れる必要があります。わが家では紙袋で出します。

紙袋はゴミ箱のとなり置き、雑紙をそこへ入れていきます。ゴミをゴミ箱へ捨てる時に分別すれば手間もかかりませぬ。

最後に続けていく「やる気」です。資源のこと、地球のことを考えて行動することは私達の未来へつながっていくことだと思います。

リサイクルが出来ると、私の心はあたたかくなります。資源を大切にアつかうことは、毎日を大切に暮らすことなのかもしれませぬ。そんな気持ちまわりの人達にも話して、リサイクル活動を広げていきたいです。

紙は大切な資源という宝物

学校でもらうプリントや手紙、私の好きな本からその本を入れる紙づくり。今、私の周りや家では、紙があるからこそ生活ができています。今までは私も過言ではないほど、人はたくさん紙にたよっています。今では私がよく食べるお菓子のパッケージでもプラスチックから紙に変わっています。今から、そんな紙の私が目にした体験を紹介いたします。

ある日、学校の社会の授業の中で先生が、「どの資源も無限ではありません。有限、つまり、限りがあるのです。」

と教えてくれました。それと同時に、紙パックはトイレットペーパーに、雑誌は絵本やボール紙などに生まれ変わる、リサイクルのおかげで有限な紙が今も使えていることを学んだのです。

興味がわいた私は、紙のリサイクルについて母に聞いてみると、月に一回、雑誌や段ボールを回収して別の物に変えてくれる工場へもついでについているということを知りました。

母に聞いたことを元に、指定の集積場に行ってみました。行ってみると目の前には、おどろきの光景が広がっていました。

朝の六時半なのに大勢の人が紙をかかえて続々と来ていたのです。住んでいるマンションでは、回収してもらう紙の種類によってあずける場所がちがうので、あずけに来た人が困らないように、なんと当番制でサポートしてくれる人がいるのです。今回の係の人は、「段ボールはこっちですよ。」と声を上げていました。

こんなにも大勢の人が、リサイクルをしてもらいに紙をもつてくるのは理由が二つあると思います。一つ目は、こうやってサポートしてくれる人がいるからだだと思います。私も読まなくなった雑誌をもつていくとサポートしてくれる人がいたので私みたいな子どもでも困らなかつたし、何だかいいことをしたようでいい気分になりました。二つ目は、大量の紙を持つていく時にマンションの台車を貸している事です。重いと、リサイクルする気にならない人でも台車で一気に楽に集積場まで運べるのです。

これからの社会は、サポートする人が他の地域でも増えたり、台車の貸し出しなどがあれば、紙を出す側は大変という考えがなくなり、もっとリサイクルの意識も高まることで私と同じようにこのいい気分もみんな味わえると思います。

今までは、母や父が「ゴミ捨て場に紙を「捨てに行っている」と思っていたけれど、今は大切な資源という宝物を「生み出している」と思っています。使い終わった紙をリサイクルして、そのリサイクルしたエコな製品を利用して…

紙の命に終わりはない！

リサイクルの輪

私は、古紙回収にあまり関心がなかった。おかしのバックや、使わない紙など、リサイクルできるものもリサイクルせずに捨ててしまっていた。中学二年のときに美化委員会に入った。その中の仕事でリサイクルボックスの中身を個人情報用の書かれていますものを書かれないものに分けるという仕事があった。しかし、リサイクルボックスの中にはあまり紙が入っていなかった。どうしてだろうと思っていた。

ある時、ふと近くに置いてあったごみ箱が目に入った。そのごみ箱の中にはクシャクシャにして丸められた紙がたくさんあった。とても悲しくなつた。クラスの人のお大半がリサイクルせずにごみ箱に捨ててしまっていたのだ。一人ひとりのリサイクルに対する意識が低すぎると思った。そこで帰りの会で

「使わなくなった紙やリサイクルできそうな紙があったら、ごみ箱に入れるのではなくリサイクルボックスに入れてください。」と呼びかけをした。

すると次の週、リサイクルボックスの中を見てみるとたくさん紙が入っていた。とても嬉しくなつた。みんなが私の声かけひとつでこんなに意識をかえてくれた皆さんの大切な資源を無駄にせずんだ。そう思うとなんだか不思議な気持ちになつた。こうやってリサイクルの輪は広がっていくんだなと気づかされた瞬間でもあった。それからはどんどんリサイクルボックスに紙がたまっていって一週間で箱から溢れ出すこともあった。嬉しかったという気持ちと同時に今までの後悔が少し残つた。ついでこのあいだまでは、こんなにもたくさん資源を捨ててしまつていたのだから。もつとはやく気づいていればよかったと思つた。

今では、ごみを捨てるときにこれはリサイクルできるかなと考えながら捨てている。確実に意識を高められていると思う。そして、それは私だけではなく、私の周りの人たちもそうだ。みんなが意識すれば、小さなものも大きくなるのだ。今はそれがとても楽しいと感じることができている。まだまだ小さな輪だけれど、着実にその輪が広がっていると思つた。私の一言からリサイクルの輪ができ、それがクラスメイトに広がり、家族に広がり、世界に広がっていく。世界中でリサイクルの輪が広がれば、無駄になる資源が減って、必要な資源が増えていく。良いことばかりで、誰も損しない。そんなステキな輪を私はこれからも広げていきたい。

みんながやってくれるから自分はいいやと思つてしまつても多いと思つた。みんながやるのではなく、自分でやる、ということを中心に生活していくべきだと私は強く思っている。他人まかせにするのではなく、自分の手で、自分の意志で世界を救うのだ。

めんどくさかった・・・けど。

「じつかりやっつけて言ってるでしょ。」
お母さんはいつもこう言う。私がパックのジューズをのみおわるときに、まるでじつこい犬にほえられているような感じで、もう聞きなれた。でもどうしてのみおわった物をキッチンにすぐ置いてはならないのか、なんでそれだけで毎回そこまで言われなきゃならないのかと、少しイラついた。「少しくらい汚れてたって、ひらいてなくなったら大丈夫でしょ。」と思いがからキッチンから出ていった。

そこから何日かたったある日。私は、姉の部活の関係で、なぜか遠い学校に一日だけ見に行くことになった。私はそこで、この学校の生徒であろうだれかが書いたポスターが目に入った。そこにはたくさんの地球問題や今の私たちにできることなどがたくさん書いてあった。私は自然が好きで、そのことだけは興味があったので、少しそのポスターを読んでみることにした。読んでいくにつれて、自分が思っていた以上のことが問題になっており、今の自分達にできることなどがたくさん書いてあることが分かり、続けて読んでいった。

「・・・」私はある一つの文に目がとまり、頭の思考がとまった。それは、今まで私が大丈夫だと思っただけだった空のパック。自分のやり方でリサイクルをしていた空のパックは、しっかりとリサイクルできていないということが書かれていたからだ。この文を見た私は、あのとき、どうしてあんなにお母さんが言っていたのかがよく分かった気がした。自分がやっていたことがどれだけ紙を無駄にしていたことだったのかと、その日からすっごく考えるようになった。でも、その日から、私はパックのリサイクルのやり方について意識するようになった。

ある日さしの暑い日、その日は空のパックのリサイクルをする日だった。その日は家にだれもおらず、私がパックを出すことになっていた。パックの回収場所につき、出そうとしたとき、ある物を見てしまった。それは、しっかりとひらいてなく、すっごく色のついていて汚い空のパックだった。私はそれを見て、自分が意識を高めるだけでは、あまり解決はしないのだと、少し悲しかった。だから、みんなに、少しの人だけでもいいから意識を高めてほしくて、自分が何かできることはないかを考えてみることにした。

何日か考えたある日、私はゴミをだすついでに、そこにいる人にすこし声をかけてみることにした。そうしたら、「そうだよ。汚れていたらリサイクルできるものも、できなくなっちゃうもんね。」と私の言葉に理解してくれた。私はそれだけで少しうれしかった。

その日から、なぜか空のパックがきれいにリサイクルされるようになっていた。
このことから、私は一人だけでも声をかけるだけで変わっていくんだとうれしくなった。これから、このことを意識し、生活していく。

「紙リサイクル」で地球の未来を守る

私の家では新聞や雑誌の紙を集めて紙リサイクルをしています。私の家で紙リサイクルを始めたきっかけは、私が小学四年生の時の「紙リサイクルで資源を大切に」という夏休みの課題でした。この課題が出るまで私達は「紙リサイクル」について知りませんでした。「紙リサイクル」で新しい紙製品を生み出すことができました。紙を再利用することで資源や環境にも優しいことを知り、少しでも力になりたいという家族一人一人の強い思いがあり、今も続けられているのだと思います。また、忙しくて紙を集めて袋に入れることができない人がいる時には時間がある人がやっつけておいてあげる。紙を間違えて捨ててしまった時には声をかける。などの一人一人が常にサポートし、家族一丸となって生活できていることも理由の一つだと私は思います。別の視点から見ると「紙リサイクル」のおかげで家族一人一人との絆を深めることができました。

家以外にも小学校で取り組んでいたことがありました。小学校では牛乳パックを回収して新しい紙を生産するために行っていました。しかし、今の世の中では新型コロナウイルスが流行していて私が小学六年生の時に感染防止のため回収することが禁止されました。私は五年生の時に学校美化委員会に所属していました。美化委員会では、学校をより良くするために牛乳パック回収の呼びかけを中心とした活動を行ってきました。ポスターを作ったり、放送で呼びかけをしました。自分はもちろん、学校の一人でも持ってきてほしいという気持ちで私の心がありました。毎週あった牛乳パック回収が突然なくなってしまう最初は何回か持ってきてしまったことがありました。自分の中の習慣、そして家族の生活の習慣だったことにこの回収を通して感じることができました。そして学校のためにできることはまず自分から積極的に行動、実践していかなければいけないことを学ぶことができました。自分が先に行動すれば他の人も頑張りたいというやる気が出る

とこの経験から実感しました。学校だけでなく、地域の人にも「紙リサイクル」の大切さを伝えることができれば良いと思いました。地域の人と「紙リサイクル」でもっと親しくなれたらこれからの生活も楽しくなると思います。一人一人の思いから未来を変えていくことができると思います。未来を育むのは私達。「紙リサイクル」で少しでも力になれることをしていきたいです。



福岡市立那珂南小学校 2年 浅井 颯汰
変身リサイクル！ 紙のヒーロー



福岡市立那珂南小学校 3年 押方 茉希
牛乳パックをリサイクルして作ったエコバック



ポスター
小学生部門
銅賞

武蔵村山市立雷塚小学校 5年 大平 華鈴
つなげよう！広げよう！紙リサイクル



ポスター
中学生部門
銅賞

川崎市立高津中学校 1年 上野 文菜
「繋ぐ」





佐賀県立武雄青陵中学校 2年 野中 夏希
まわそう、リサイクルのサイクル



仙台市立南光台中学校 2年 半澤 美海
楽しみをくりかえす。





学校特別賞

山口県

岩国市立灘中学校



【沿革】

昭和22(1947)年5月 開校

児童数 256名

学級数 11学級

上田 勝彦 校長先生からのコメント

地域とともにある学校として環境問題やリサイクル運動に取り組む中で、生徒の想いのこもった作品を出展させていただいた成果として、2021学校特別賞という名誉をいただきましたことを、大変光栄に思っております。今回の受賞をきっかけに、今後もますます、2030年をめざしての継続したSDGsへの取り組みを推進していくようにと励ましをいただいたものとして、さらなる発展へのきっかけとさせていただけるように願っております。

継続応募年数 6年 (平均作品数 45点)



学校特別賞

高知県 日高村佐川町学校組合立加茂中学校



【沿革】

昭和 22 (1947) 年 4 月 開校

生徒数 43 名

学級数 5 学級

大原 龍巳 校長先生からのコメント

小規模校である本校は、地域との関わりを大切にしています。独居老人への年賀状の配布・鉢植えの花配り、空き缶拾いなど生徒会が中心となって行っています。また、アルミ缶・新聞紙・牛乳パックの回収など積極的に行い、各種団体や海外の子ども基金に募金するなど地域や世界に目を向ける取り組みになればと考えています。夏休みの課題の一つとして、少人数ですが関心を持ち毎年作品を提出しています。今回の受賞を機にリサイクル活動や、地域貢献に目を向けた取り組みが更に進むことを期待しています。

継続応募年数 6年 (平均作品数 13点)

(全校生徒数に対する応募数割合が 30.2%)



学校奨励賞 小学校部門

兵庫県

神戸市立霞ヶ丘小学校

2021年度応募作品数 189点 (作文 189点)

学校紹介

昭和27年4月に開校し、令和4年度には70周年を迎えます。瀬戸内海に面したなだらかな丘陵地に位置し、教室からは明石海峡大橋の美しい景観が望めます。本校では、PTAが中心となって資源回収やベルマーク回収を行っており、得た助成金で、冷水機や縄跳びボードなど子供たちの学校生活に役立つものを寄付していただいています。限りある資源を無駄なく使う、分別回収に協力するなど、できることからみんなで取り組んでいます。



【沿革】

昭和 27 (1952) 年 4 月 開校

児童数 1,150 名

学級数 36 学級



学校奨励賞 中学校部門

福島県

白河市立白河中央中学校

2021年度応募作品数 437点 (ポスター 437点)

学校紹介

本校は福島県南部に位置し、歴代白河藩主の居城である小峰城や寛政の改革を行った松平定信により築造された日本最古の南湖公園、といった景勝地が学区内にあります。生徒は浮世絵の世界的影響について鑑賞し、白河だるま、起き上がり小法師、地元の工芸張り子に絵付けをしています。環境教育の一環として空き缶を回収し、生徒達が継続して花を育て、地域の施設に花苗のプランターを毎年贈呈しています。



【沿革】

昭和 22 (1947) 年 4 月 開校

生徒数 452 名

学級数 16 学級

公益財団法人古紙再生促進センターの活動

当センターは、小中学生を対象にした紙リサイクルに関する以下の取組みを行っています。
環境教育の1つとして是非ご活用ください。

紙リサイクル促進大使
「カミリィ」ちゃんと
「カミリィママ」



全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト

毎年度、全国の小中学生に“紙リサイクル”に関する作文、ポスター作品の募集を行い、応募作品の中から優秀作品を選定し、受賞者を表彰しています。

第13回目となった
2021年度は
3,274点の応募が
ありました



【コンテストの内容】

募集対象 全国の小学生・中学生ならどなたでも

テーマ 紙リサイクルに関する活動やアイデア

募集部門 作文（小学生部門、中学生部門）
ポスター（小学生部門、中学生部門）

賞と賞品

文部科学大臣賞 作文部門1点、ポスター部門1点
（賞状・楯・副賞図書カード5万円）

金賞 各部門1点（賞状・楯・副賞図書カード3万円）

特別金賞 3点（賞状・楯・副賞図書カード3万円）

銀賞 各部門1点（賞状・楯・副賞図書カード1万円）

銅賞 12点（賞状・副賞図書カード2千円）

学校特別賞 2校以内（賞状・副賞ギフトカード5万円）

学校奨励賞 2校（賞状・副賞ギフトカード2万円）

参加賞（応募者全員に記念品）

2021年度 応募数

	小学生	中学生	合計
作文部門	566	728	1,294
ポスター部門	621	1,359	1,980
合計	1,187	2,087	3,274

	小学校	中学校	合計
応募学校数	71	149	220

教室、塾など	20		
--------	----	--	--

個人応募数	93	総計	333
-------	----	----	-----

スケジュール 例年5～6月 募集開始、秋頃締切

* 来年度の募集開始・応募締切は、新型コロナウイルスの状況より判断し、当センターホームページ等にてお知らせします。

“オンライン”紙リサイクル出前授業

全国の学校を対象に
授業を実施します



講義風景（オンライン）

紙リサイクルの大切さについて理解を深めてもらうことを目的に、主に小学生を対象に出前授業を行っています。コロナ禍に対応して、オンラインでの出前授業を開始しました。
なお、訪問型の出前授業も実施しています。

【出前授業の内容】

① 講義（45分）

〇×クイズやアニメ動画の視聴、パルプの実物見本の観察などを通して紙リサイクルについて学びます。

② 手すきはがきづくり（45分）

児童全員に古紙からハガキを作る体験をしてもらい、紙リサイクルのプロセスについて学びます。

***上記以外のパターンにも対応可能です**

※出前授業の実施に伴う費用は一切かかりません。

※訪問型の場合、地域によっては講師を確保できない場合があることをご了承願います。



アニメ動画



手すきはがきづくり

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021
入賞者一覧・受賞作品 作品集

企画・発行

公益財団法人古紙再生促進センター

<http://www.prpc.or.jp/>

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

TEL: 03-3537-6822 FAX: 03-3537-6823

本作品集はこちらからもご覧いただけます。

http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/award/



古紙再生促進センターは2024年に創立50周年を迎えます